

事業間連携砂防等事業再評価調書

路線・河川等名	すみやまだに 炭山谷川	事業名	事業間連携砂防 等事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所（区間）	うじしすみやま 宇治市炭山 地内		
事業概要	目的	炭山谷川は、宇治市炭山に位置し、流域面積 0.09km ² で、人家 21 戸（南谷）、18 戸（北谷）、炭山工芸村、府道、市道を保全対象とする溪流である。平成 24 年 8 月の集中豪雨により土石流が発生し、人家が 1 戸全壊するなどの被害が生じた。流域内には崩壊地や溪岸浸食、不安定土砂の堆積があり、台風による大雨や近年多発する局所的な集中豪雨による被害の拡大が懸念されることから、土砂災害の被害軽減を図り、地域の安全、安心を確保するため、土砂災害対策工事を実施する。			
	内容	砂防堰堤 N=2 基（南谷 1 基、北谷 1 基）、溪流保全工 L=69m（北谷） 管理用通路工 L=282m 全体事業費：8.8 億円			
	上位計画等	京都夢実現プラン 山城地域振興計画			
	進捗状況及び今後の見込み	平成 24 年に事業着手し、平成 25 年 4 月に事業認可、平成 29 年 10 月に砂防指定地の指定を行った。現在、砂防堰堤の管理用通路を整備しており、今後、上流部からの土石流を捕捉するための 2 溪流の砂防堰堤工事を実施する見込みである。（令和 3 年度までの事業費約 3.8 億円）			
事業の社会経済情勢及び地元情勢等の変化の必要性	当該箇所の谷出口付近には、土石流が発生して被害のあった人家を含む集落が広がっており、今後の豪雨等により土石流が発生した場合には、保全対象である人家、炭山工芸村、府道、市道が被害を受ける恐れがあるため、地域住民に与える影響は大きい。				
事業の投資効果及びその要因の変化の有効性	土石流による土砂災害から下流に存在する人家等、府道、市道を保全し、人命を守る事業であり、投資効果は大きい。				
事業のコスト削減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全等	砂防えん堤を効率的に配置し、施設の規模を抑制することで、地形の改変を最小限に抑え、自然環境への負荷軽減に努める。 現地発生土を他工事に積極的に流用調整することで他工事を含めた総事業費のコスト削減を図る。				
総合評価	本事業は、土石流による土砂災害からの人命保護及び地域防災力向上の観点から、引き続き事業を継続する必要がある。				

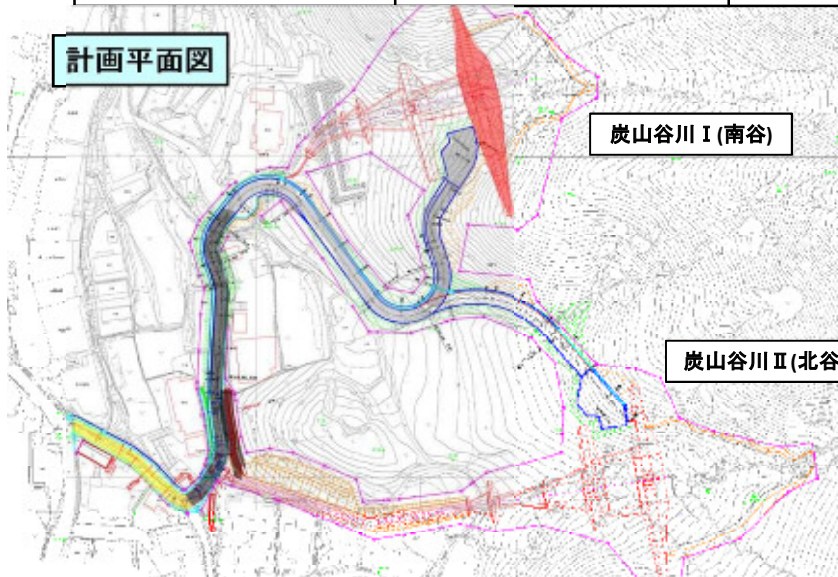
すみやまだにがわ
淀川水系 炭山谷川 事業間連携砂防等事業
 きょうとふ うじし すみやま
京都府 宇治市 炭山

◎事業目的

当該溪流は、平成24年8月の集中豪雨で土石流が発生し、人家1戸全壊の被害が発生したところである。溪流には不安定土砂が堆積した状況にあり、今後の降雨により再度災害のおそれがあるため、早急に対策を行う必要がある。保全対象として人家（南谷21戸、北谷18戸）、炭山工芸村、府道二尾木幡線（南谷84m、北谷204m）、市道（南谷240m、北谷375m）がある。

◎事業概要

全体計画	R3年度までの実績	R4年度計画
H24～ 測量、調査、設計、 用地測量、砂防堰堤工 2基、溪流保全工、 管理用道路 事業費：876百万円	測量、調査、設計、 用地測量、用地買収、 管理用道路、公共補償 事業費：378百万円	砂防堰堤工1基



『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	令和 4年 2月 25日
作成部署	建設交通部砂防課

事業名	炭山谷川 事業間連携砂防等事業	地区名	宇治市炭山 地内		
概算事業費	8.8 億円	事業期間	平成24年度～		
事業概要	砂防堰堤、溪流保全工、管理用通路工				
目指すべき環境像	炭山谷川は、1級河川志津川の流域に位置する溪流である。 砂防えん堤を整備し、土砂移動を軽減することにより、集落への土砂流出を防ぎ、動植物の生育環境の保全と、長期的な景観の保全を目指す。また、地域住民の安心・安全を確保すると共に、地域の生活環境の保全に努める。				
関連する公共事業	なし				
評価項目	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)		溪流が荒廃しており、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。	砂防えん堤を設置することで、溪流の土砂移動を抑止し、現地地形と植生の保全を図る。	
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)	○			4
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系	○			4
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		溪流下流に人家や府道が位置しているため、工事期間中の土壌流下や、工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。 また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事实施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。 粉じんが発生する工程では、散水や防塵シートを使用する等、日常生活に支障を及ぼさないよう、配慮する。 また、建設発生材は当該工事や近隣の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。	
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			3
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	○	当該溪流下流は人家が密集する集落であるが、流域は豊かな自然環境や景観に恵まれていることから、植生等の環境の改変を最小限に止める必要がある。 地元住民に工事の周知を行い、本事業の意義を共有し理解を促す必要がある。	材料の選定にあつたては、現地採取材料の活用や、在来種による掘削法面の復旧等、地域の自然景観との調和を図るよう努める。 地域協働では、地域住民に対し、土砂災害に関する意識向上が図られるような、工事説明会等を実施する。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行事				
	地域住民との協働	○			4
	その他				
外部評価					